

花王のアプローチ

花王は、工場や事務所から発生する廃棄物の削減、再資源化、最終処分量の削減を進めています。また、お客さまが製品を使用した後に廃棄する、容器包装やおむつなどの重量の削減に努めています。さらに、工場や事務所から発生する廃棄物が適切に処分されていることを確認するため、廃棄物処理業者を訪問し現地監査しています。

社会的課題と花王が提供する価値

廃棄物の発生量の増大は世界の社会課題になっています。また、廃棄物処理システムの社会基盤の整備が不十分な地域では、廃棄物の放置や、処分場の管理が不十分なため人への健康被害や環境汚染を起こす例もあります。

花王は、工場や事務所から廃棄物を発生させているだけでなく、お客さまの使用後に廃棄物となる製品を提供しており、廃棄物に関する社会課題に取り組んでいく責任を負っています。

花王は、廃棄物の発生そのものを減らすことを最優先に考えています。それによって、製品の製造に用いる資源やエネルギーの保全、エネルギー消費に伴い発生するCO₂の削減、バイオマス原材料の使用削減による生物多様性保全にもなるためです。この「廃棄物削減」という課題解決に向け、花王は技術開発に取り組んでいます。たとえば、容器包装の減量化や、つめかえ化に必要な技術開発を進め、家庭から排出される廃棄物の削減に貢献しています。

また、家庭でやむなく発生した廃棄物を可能な限りリサイクルできるようにすることで、資源保全・循環型社会形成に貢献しています。リサイクルは社会との連携が不可欠です。家庭から排出される廃棄物は、行政など社外機関が回収し、処理やリサイクルしますが、日本や台湾では容器リサイクル法のもと、花王は容器包装のリサイクルを外部業者に委託して、リサイクルを実現しています。

近年では海洋を浮遊する廃棄物によるさまざまな影響にも注目が集まっています。不適切に投棄された廃棄物が海洋に流出して海洋ごみになると考えられています。この問題の解決には、社会全体での廃棄物回収・リサイクルシステムの構築と、製品供給事業者による容器包装等の削減が必要です。花王は、つめかえ用製品の普及等による容器包装の削減に取り組むことで、社会と協働して問題解決に貢献していきます。

貢献するSDGs



方針

事業活動に伴う廃棄物の削減

花王は、工場や事務所から発生する廃棄物等の発生量を削減し、発生した廃棄物等については社内外での再利用、リサイクルを進めています。廃棄物発生量の削減目標を掲げ、グループ全体で取り組んでいます。

工場においては、原材料ロスや製品ロスの削減を進めています。たとえば、液体状の製品の場合、1つの生産設備で生産する製品を切り替えるときに、配合用タンクや貯蔵用タンクの洗浄で排水汚泥が発生します。シート状製品の場合は、材料を交換するときに使い切れない部分が発生します。このようなロスの発生内容に応じたロス削減対策を常に検討し改善を重ね、削減を進めています。

発生した廃棄物は、リサイクルが可能なように分別を徹底し、より適切な方法を選定し、委託業者と協力してリサイクルを進めています。リサイクル量や最終処分量も発生量と併せてモニタリングし、廃棄物処理方法全体の改善に取り組んでいます。

容器包装使用量の削減

花王は、容器包装使用量を削減するために、使用する樹脂量の削減、内容物の濃縮化等による容器包装の

コンパクト化、つめかえ用製品の提案等を行なっています。これらはISO18600シリーズ(環境配慮包装規格)に則った活動です。



製品の材料使用量の削減

花王は、おむつやシート製品など、お客さまの使用後に製品そのものが廃棄物になる製品を提供しています。花王は、製品機能を確保すると同時に、材料使用量を削減する技術を開発し、廃棄物削減に貢献しています。

廃棄物の不法投棄防止

工場や事務所から排出される廃棄物の処理を処理業者に委託する場合、不法に投棄されるリスクがあります。花王は、このリスクを低減するため、定期的に処理業者を訪問し、廃棄物が適切に処理されていることを確認しています。

日本花王グループにおいては、廃棄物処理業者の契約情報や適正処理調査結果などをデータベース化し、不法投棄防止を確保しています。このシステムは不法投棄を防止する「電子マニフェストシステム」に連動しており、併せて不法投棄防止を確実なものにしています。

PCB廃棄物を適正に保管・処理

ポリ塩化ビフェニル(PCB)は、絶縁油として変圧器や安定器等で利用されてきましたが、難分解性のため人の健康および生活環境に関わる被害が生じるおそれがあります。花王は、PCB廃棄物を処理業者に処理委託するまでの間、廃棄物処理法およびPCB特別措置法の基準に従って適切に保管し、適宜適切に処理を行なっています。

体制

廃棄物に関する活動は、レスポンシブル・ケア(RC)推進体制で管理しています。SCM部門は、全工場の環境担当者が参加する環境部会を開催し、各工場の廃棄物に関して進捗管理をしたり、ベストプラクティスを社内展開しています。

廃棄物処理業者の現地確認は、SCM部門、購買部門、ロジスティクス部門、情報システム部門、販売部門、関係会社で協働し、計画的に実施しています。

また花王は、環境関連データを一元管理するデータベースを用いて、データの信頼性を確保し、業務を標準化・効率化することで、的確な活動展開につなげています。

中長期目標と実績

中長期目標

花王グループの全拠点における廃棄物等発生量の2020年削減目標は、毎年0.5%の削減を目標に、2013年に設定しました。日本花王グループの全拠点における最終埋立処分率の目標は、段階的にレベルアップしてきました。2004年に0.5%以下で開始し2007年には0.2%以下、2010年以降は0.1%以下としています。

廃棄物に関する目標

項目	対象範囲	2017年目標	2018年目標	2020年目標
廃棄物等発生量※1	花王グループ全拠点	31%削減	32%削減	33%削減
最終埋立処分率※2	日本花王グループ全拠点	0.1%以下	0.1%以下	0.1%以下

※1 売上高原単位(2005年比)

※2 廃棄物等発生量に対する最終埋立処分量の割合

2017年の実績

1. 廃棄物等発生量

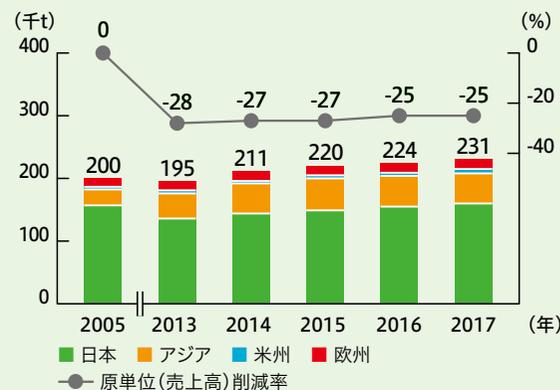
2017年は生産量が増加したことや生産ライン増設の影響等で、廃棄物等発生量は前年より7千トン増加、売上高(原単位)削減率は前年と同じ25%となり、目標の31%削減には到達しませんでした。引き続き、廃棄物等発生量の削減活動を強化していきます。

廃棄物等発生量のうち有害廃棄物量は19千トン、バーゼル法に定める国際輸送された有害廃棄物はありませんでした。再使用・リサイクル※された廃棄物等は214千トン□、リサイクル率は92%でした。

廃棄物等最終埋立処分率は目標の0.1%以下を維持し、ゼロエミッション目標を設定以来13年連続達成しています(日本花王グループの全事業場対象、廃棄物等発生量に対する最終処分量の割合)。

※ サーマルリサイクル(熱回収)を含む

廃棄物等発生量の推移□(全拠点)



※ 集計対象拠点:2014年までは花王グループ全生産拠点、日本国内の非生産拠点が対象。2015年からは海外の一部の非生産拠点も含めています。

※ 保証対象は廃棄物等発生量

※ 売上高原単位は、2015年度以前は日本基準、2016年度以降は国際会計基準(IFRS)にて算出しています。

2017年は廃棄物発生量に改善の傾向が見られたものの、2020年目標との乖離を縮小することが課題であり、引き続き低減に向けた活動に努めていきます。

2. 処理業者施設の確認

2017年は、170社の処理業者にご協力いただき、212施設処理現場の確認を行いました(日本)。その結果、花王の評価基準で不適合だった処理業者はありませんでした。

3. PCBの適正な保管・処理

2017年は、高濃度PCB廃棄物を42台、低濃度PCB廃棄物を1台処理しました。現在、和歌山、川崎、小田原、KCMK熊本で保管しています(日本)。

廃棄物

ステークホルダーとの協働

廃棄物セミナーや講習会等での事例紹介

国内では、廃棄物を処理委託する際、処理委託者がその物理的・化学的情報を十分に処理業者に伝えないことによる事故が、処理業者で多く発生していると報告されています。

そこで花王は、過去、処理業者とのコミュニケーションにより改善を行ってきた事例を社会に広げるとともに、自ら行なっている伝達情報の改善点を見いだすために、さまざまな廃棄物セミナーで事例紹介を行なっています。

また、自治体の廃棄物行政に協力しており、2017年は東京都墨田区が開催した事業所の廃棄物管理責任者を対象とした講習会で、モデル企業として活動事例を紹介しました。自治体の活動を通じて、地域の廃棄物管理活動向上に貢献していきます。

これらの活動の結果、2017年も、花王から処理委託した廃棄物に伴う事故はありませんでした。

ヘアサロン事業におけるステークホルダーとの連携

ヘアサロン事業においては、ディスペンサータイプのヘアカラーを開発し、チューブタイプのヘアカラーに比べ化学廃棄物を約25%削減しました。

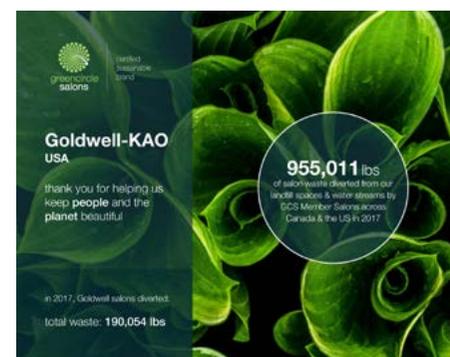
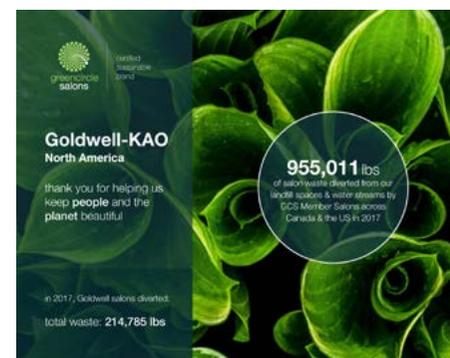
さらに、2012年からカナダ、2016年からアメリカにて Green Circle Salons, Inc.* と連携して、容器、紙、カラーリング剤などの化学廃棄物などを回収し、リサイクルする活動を行なっています。

この回収活動により、2017年は花王の北米地域の加盟サロンから出る廃棄物を前年と比較して184トン削減することができました。

* Green Circle Salons, Inc.
<https://www.greencirclesalons.ca/>

花王のアプローチ

具体的な取り組み



Green Circle Salons, Inc. による廃棄物削減の証明書

具体的な取り組み

廃棄物削減(発生量削減と再利用推進)の取り組みを推進

原材料調達における取り組み

一部の製品にリサイクル材料を利用し、廃棄物削減に貢献しています。フロア用そうじシート「クイックルワイパー」にはリサイクルPET樹脂、衣料用粉末洗剤「アタック」の計量スプーンにリサイクルPP樹脂、台湾で販売しているシャンプーなどの容器にリサイクルPET樹脂を利用しています。

花王の工場で発生する廃棄物を削減するために、サプライヤーと納入原料の量と納入頻度適正化の取り組みを実施しています。

開発・生産・販売における取り組み

廃棄物のリサイクル強化

2017年、花王USAはリサイクル用分別施設を新設し、稼働を開始しました。廃棄物を分別保管する専用エリアと、専用のトラック積み込みバース(スペース)を備えています。これにより、より高いレベルでのリサイクルを進めていきます。

さらに、花王USAは「Kao Zero Team」を組織し、社会的に廃棄物削減を促進しています。事務所での廃棄物の分別や紙コップの廃止等、従業員の意識向上にも努めています。

排水汚泥の削減

花王は、液体製品を多く扱うため、タンク洗浄による濃厚排水の処理により発生する汚泥の削減は大きな課題です。

花王インダストリアル(タイランド)では、排水のCOD濃度に応じて、別々の排水処理設備で処理することで排水処理場の汚泥発生量抑制に成功し、廃棄物削減に貢献しています。

サニタリー製品用材料のマテリアルリサイクル

花王は、各国でサニタリー工場を所有しています。生産では、最後まで製品化されない材料が発生しますが、各工場ですらった余った材料のマテリアルリサイクルを進めています。

おむつや生理用品の端材を、プラスチックパレットにマテリアルリサイクル化する取り組みはその一つです。花王のマトリックス運営組織の強みを活かし、研究所など関連部門が協力し合い、花王の工場内でテスト運用を2016年から開始しました。強度等を確認し、今後の実運用をめざしています。

箱使用量の削減

小売業者における廃棄物発生量削減に貢献するために、製品を小売業者にお届けするために使用される箱の利用量の削減を、小売業者の理解・協力のもと実施しています。

使用における取り組み

コンシューマープロダクツ事業における取り組み

お客さまが製品を使用した後で廃棄物となる容器包装に使用される原材料の削減を継続しています。



→ P66「エコロジー>容器包装」

また、花王が実施している容器・包装の3Rの取り組み事例を、日本石鹼洗剤工業会やプラスチック容器包装リサイクル推進協議会、紙製容器包装リサイクル推進協議会等を通じて、容器包装メーカーや同業他社などに紹介する啓発支援活動を積極的に進めています。

ケミカル事業における取り組み

パルプモールド成形技術と高温材料技術が融合した花王の紙製湯道管は、古紙を原料に利用しているため、原料重量が10分の1に、利用後の廃棄物量が16分の1に減少します。

人と環境にやさしく、持続可能な社会の発展を支える化学の推進に貢献した点が評価され、第16回「グリーン・サステナブル ケミストリー (GSC) 賞 経済産業大臣賞」を受賞しました。



→ ニュースリリース

花王の「紙ベース铸造用湯道管の開発」が第16回「グリーン・サステナブル ケミストリー (GSC) 賞 経済産業大臣賞」を受賞

<http://www.kao.com/jp/corporate/news/2017/20170628-001/>

Topic 花王インダストリアル(タイランド)の廃棄物管理活動が表彰

花王インダストリアル(タイランド)は、タイ工業団地公社より「Best Waste Management Award」の最上位「Platinum」に認定されました。この受賞は、タイ工業団地公社の監査結果に基づいており、廃棄物の削減、再利用、再資源化に関する優れた管理手法と活動結果が認められたものです。



監査を受ける花王インダストリアル(タイランド)



表彰式